

障がい者 × クリエイター 自由に真っ直ぐな アート表現を商品化へ

徳島クリエイターズライブラリの
マッチング事例を紹介するこちらのコーナー。
今回は障がい者の方たちと
グラフィックデザイナーとのマッチング事例です。
マッチングのきっかけとなったのは
徳島県障がい者芸術・文化活動支援センターが
開催した『Tシャツデザイン展』。
障がい者×クリエイターで
どのようなコラボレーションをしたのでしょうか？

710作品が集まった 第3回全国公募 「Tシャツデザイン展」

徳島県立障がい者交流プラザの廊下にズラッと並んだTシャツのデザイン原画。これらは『夏の空をTシャツで彩ろう』というテーマで全国公募して集まった710点のTシャツ型アート作品です。今年で3回目の『Tシャツデザイン展』は、全作品の中から優秀賞を選出しており、今回も5名の作品が受賞しました。主催である徳島県障がい者芸術・文化活動支援センターの西木さんは、この公募を始めきっかけをこう話します。「元々は、障がい者交流プラザに作ったギャラリーの開設記念の展示を行うために始めたんですよ。それと、障

がい者の人たちのアート作品を発表する場を作りたいかったというのがあります。そういう場って実はあまりないんです。でも、このTシャツデザイン展は『気軽に参加できる』とみなさん喜んでくれています」

直感的に、ストレートに。 障がい者たちの 力強いアート作品

展示作品を見ると、どれもすごく個性的で、迷いなく描かれているように感じます。これまで数々の作品を見てきた西木さんに障がい者の方々が生み出すアートの魅力について聞いてみました。「障がい者だから、というわけではないですが、みなさん作品作りのときに

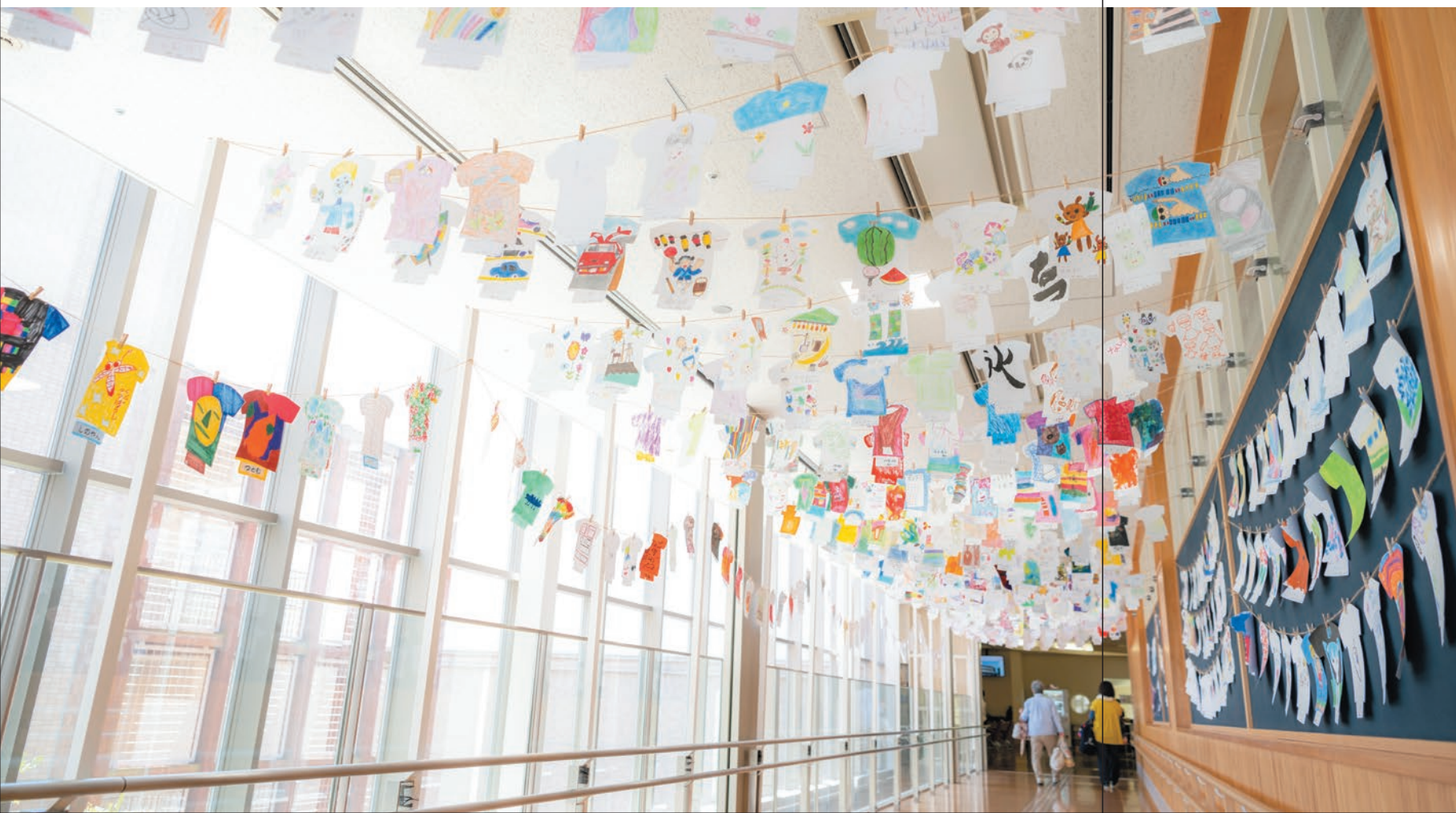
迷いなく手が動いてアートが出来上がっていくんですね。とてもストレートな表現で、作者本人の想いが感じられるようなアート作品になっています。直感的に作られるアートだから、直感に訴えてくる力があって。心を動かされる作品も多いです」

そんな作品の中から優秀賞が選ばれるわけですが、第1回ときには受賞者に作品をそのままプリントしたTシャツを贈呈、「売って欲しい」という声を受けて第2回ときにはTシャツの販売も行っています。「今年の第3回目は、徳島県内のクリエイターに参加していただいて、障がい者とクリエイター協働でのTシャツの商品化をやろう、ということになったんです。そんなときに、徳島クリエイターズライブラリというHPを見つけ

て、そこに登録されていたグラフィックデザイナーさんに協働制作をお願いしました」

障がい者とクリエイターの マッチング

今回参加したクリエイターは5名。作品の審査から担当し、5名それぞれが優秀賞として選んだ作品をベースにデザインを行い、Tシャツを商品化しています。「障がい者施設でプロのデザイナーと協働している例はほとんどないと思います。こういったやり方があるんだということを知ってもらえたらなど。また、障がい者×クリエイターでこんなに素敵な作品ができるんだということ、いろんな企業の方にも知っても



徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

西木さん



01

CREATOR
大東浩司

Koji Ohhigashi

原作者
山尾俊介さん

02

CREATOR
近藤哲朗

Tetsuro Kondo

原作者
澤口健也さん

りたいですね」

西木さんは、障がい者の魅力的なアートを企業の広報などにも活用して欲しいと話します。確かに、企業と障がい者とクリエイターの三者マッチングで、これまでにないものが生まれそうです。

そして、こちらが今回商品化されたTシャツのデザイン原画(5作品内の3作品)。Tシャツデザイン展で優秀賞を受賞した作品です。この原画を元に、グラフィックデザイナーがTシャツデザインを仕上げています。どんな仕上がりになったのか、ひとつずつ見てみましょう。

山尾俊介 × 大東浩司 多彩な笑顔のストーリー

まずは、原作者・山尾さんとグラフィックデザイナー・大東さんのペアです(写真01)。2人が着ているのが実際に商品化されたTシャツ。山尾さん

は『みんなと一緒に』『楽しい』『嬉しい』『キラキラ』をテーマに原作を制作したと言います。「イラストで人がたくさん並んでいるんですが、その細かくて緻密な描き込みにとても惹かれました。描かれている人たちにはいろんな表情があって、また多彩な色使いで一人ひとりを表現しているんですね。それほど多くの色を使っているわけではないのですが、同じ色の人が一人もいなくて。こういった色の使い方や作品の発想は自分にはできないことなので、余計に魅力的に感じましたね」

原作を見たときの感想を大東さんはそう話します。

完成したTシャツには『FUN, HAPPY, AND SPARKLING WITH EVERYONE.』というタイポグラフィが添えられています。和訳すると『楽しく、ハッピーで、はじけるみんなの笑顔』。この文字を入れた理由

を大東さんは「原作のイラストを見ただけで山尾さんの幸せそうな日常の風景が浮かんだ」からだと言います。「毎日ハッピーに暮らしている感じ、いろんな人の笑顔に囲まれて日常を過ごしている感じが作品から見てきたんですね。そのストーリーが感じ取れる作品だったのが、一番魅力的だったポイントです」

完成したTシャツからは幸せそうなストーリーが確かに感じられます。着た人も幸せになれる、そんな素敵なTシャツに仕上がっていました。

澤口健也 × 近藤哲朗 空(そら)と空(くう)がリンクする

2組目は原作者・澤口さんとグラフィックデザイナー・近藤さんのペア(写真02)。2人が着ているのが完成したTシャツですが、シンプルですがくっ



03

CREATOR
佐藤あすか

Asuka Sato

原作者
亀川英樹さん

ます。近藤さんは澤口さんの原作についてこう話します。「審査のとき、たくさんの人に着てもらえることを想像しながら選考しました。そういう視点で見たとき、澤口さんの作品は多くの人に共感を持ってもらえる、かっこいいTシャツに仕上がるイメージが最初から浮かんだんですね。『夏の空』という全体のテーマをシンプルに表現していたのも素晴らしいと思いました」

完成したTシャツには澤口さんのイラストの上にフランス語のコピーがのっています。「澤口さんは般若心経が好きで、よく歌われていると伺いました。それを聞いた瞬間に有名なフレーズ『色即是空 空即是色』が頭に浮かんで。それを『目に見えるものだけに、とらわれない。』というコピーに変換して、フランス語のタイポグラフィにしました」

原作の『空(そら)』のイメージと、般

若心経の『空(くう)』がデザイン上でリンクして、ただかっこいいだけじゃない、メッセージ性のあるTシャツになっています。澤口さんが直感的に描いた原作と近藤さんのデザインの見事な融合ですね！

亀川英樹 × 佐藤あすか 素敵な色使いをカラーパレットに

最後は原作者・亀川さんとグラフィックデザイナー・佐藤さんのペアです(写真03)。とてもポップでカラフルなTシャツに仕上がっていますね！亀川さんの原作には、ダンボール、羊、列車、鳥など、様々な絵が描かれています。描かれているものは全て亀川さんの好きなものだそうです。審査の際に亀川さんの作品を見た佐藤さんは「もう、一目惚れだった」のだとか。「平和な感じですがすごく良いなと思いました。具体的なものを描かれているん



優秀賞の5作品が商品化され、実物が会場内に展示されています。



今回取材させていただいた3つのTシャツデザインの原案。

ですが、どこか抽象的でもあって、見る人がいろんな想像ができるんですね。私は最初、飛行機のようにも見えて。他にも顔に見える部分もあったり、いろんな要素が散りばめられているんですけど、作品全体として見たときには不思議とまとまりがあるんですよ」

特に原作の色使いに魅力を感じたという佐藤さんは、Tシャツの背面にカラーパレットのように原作から抽出した色を配置しています。こう見ると亀川さんの色使いのセンスの良さがよく分かりますね。このTシャツも着るだけでハッピーになれそうです。

『Tシャツデザイン展』をきっかけに生まれた、障がい者とクリエイターのコラボ作品。この魅力はクリエイター単体の仕事では出せない、と言ってもいいでしょう。どれも、まさしく唯一無二の素敵な作品になりました。障がい者 × クリエイターのコラボは、これからさらに広がっていくかもしれませんよ。